

着衣着火防止のポイント

- 調理中は、マフラー・ストールなどは外し、すそや袖が広がっている服を着ている時は、特に炎に接しないように注意しましょう。
- こんろの奥に、物を置かないようにしましょう。
- こんろのまわりは、整理整頓をしましょう。
- 鍋等の底から炎がはみ出さないよう、適切な火力に調整しましょう。
- カセットこんろ等は取り扱い説明書を、よく読んで正しく使いましょう。
- 金属製湯たんぽは、直接火にかけると危険です。



防災品を使いましょう!

火が接しても着火しにくい防災品のエプロン・アームカバーを使い、調理中の着衣着火を予防しましょう。



このラベルが目印!

*一人暮らしのお年寄りへのプレゼントにもおススメです!!

もし着衣に火が着いてしまったら..

脱ぐ、たたく、水をかけるなどして早急に消火し、119番通報を行いましょう!!

問合せ先 東京消防庁〇〇消防署〇〇課 電話〇〇-〇〇〇〇-〇〇〇〇(代表)

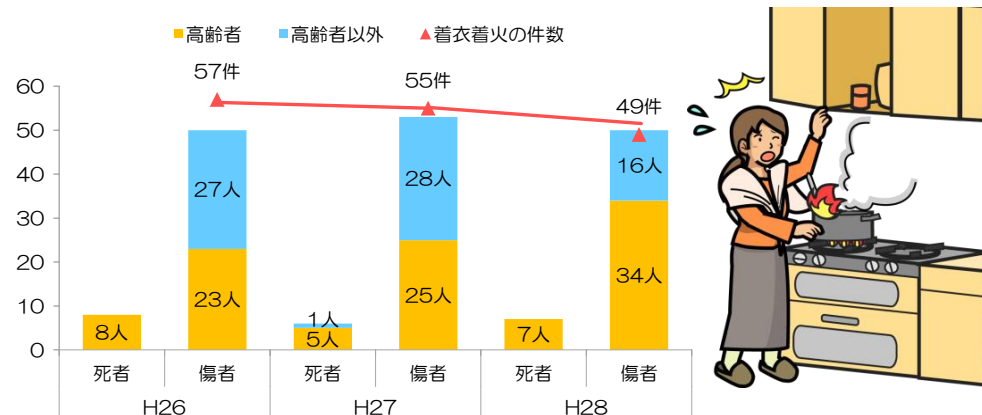
平成29年10月発行

STOP! 着衣着火

東京消防庁

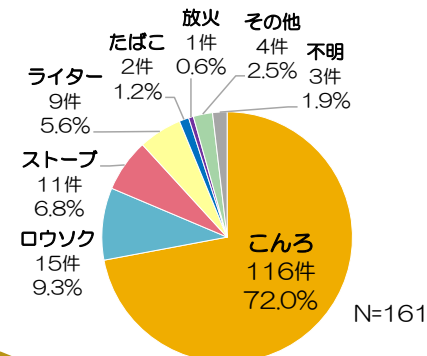
着衣着火による高齢者の死者が多発!

着衣着火とは、調理中にこんろの火が袖口に燃え移るなど、何らかの火が着ている服に着火した火災をいいます。平成28年の着衣着火による火災件数は51件発生し、昨年と比較すると4件減少していますが、7人の方が亡くなり、全員が高齢者です。



着衣着火件数・死者数・傷者数 (H26~H28 住宅内 自損は除く)

着衣着火件数のうち、こんろを出火原因とする火災が、約7割を占めています。

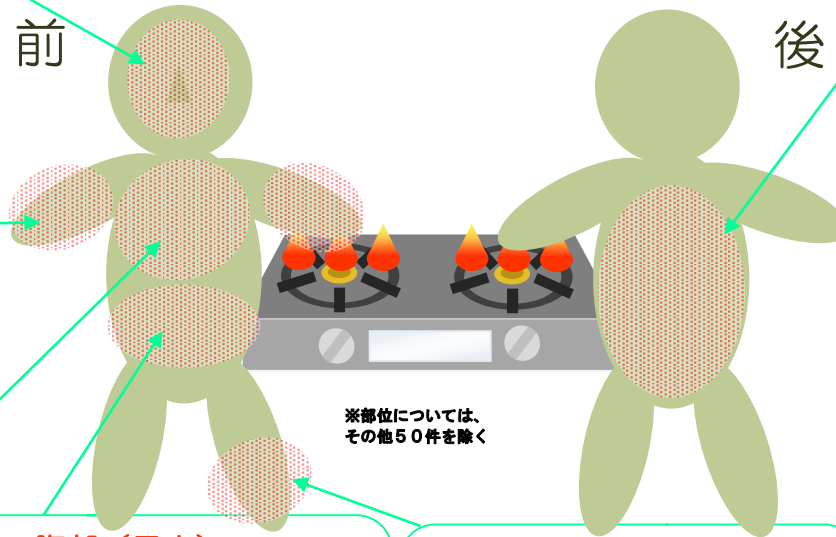


出火原因別着衣着火件数 (H26~H28 住宅内 自損は除く)

こんろによる火災の事例は、次ページをご覧ください。

こんろによる着衣着火

過去3年間の住宅火災で、こんろを出火原因とする着衣着火の主な事例をご紹介します。(平成26~28年、全116件、死者14人、傷者116人)



※部位については、
その他50件を除く

顔 (5人)

女性 50代は、首にスカーフを巻いたままこんろに火をつけたため、垂れ下ったスカーフに着火し受傷。(中等症)

手、腕 (41人)

- ① 女性 40代は、こんろで調理をしている時に、着ていたシャツのボタンを留めていなかったために、シャツの袖に引火し受傷した。(軽症)
- ② 男性 80代は、やかんを火にかけ、こんろの奥にある炊飯器に手を伸ばした際に、着ていた着衣の右上腕部に着火し受傷した。(軽症)

胸部 (10人)

女性 70代は、やかんを火にかけ、ガステーブルの上の換気扇のスイッチに手を伸ばした際に、着衣に着火し、受傷した。(中等症)

腹部 (7人)

女性 70代は、調理中に換気のため窓を開けようと手を伸ばした際に、ニット製の着衣の腹部に着火し、受傷した(中等症)。

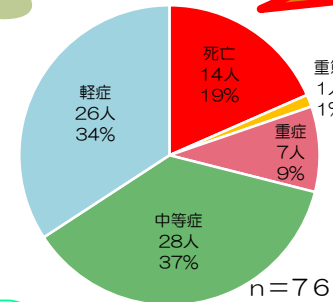
足部 (1人)

女性 90代は、カセットこんろで暖をとっていたところ、着衣が火に触れて着火し受傷(重篤)。

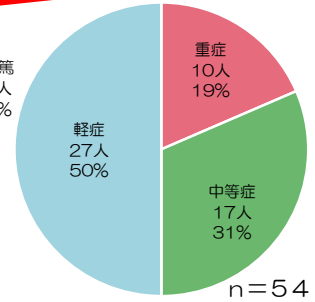
背部 (16人)

男性 60代は、やかんを火にかけ、お茶道具を準備するためにこんろに背を向け際に、着衣の背部に着火し受傷。(中等症)

高齢者は素早い消火ができず、重症化してしまう場合が多くあります。



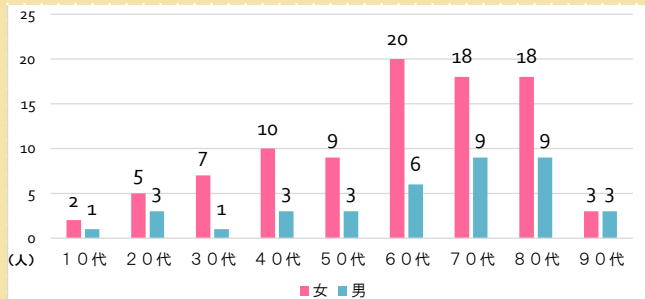
受傷程度別死傷者数 (65歳以上)



受傷程度別死傷者数 (65歳未満)

こんろによる着衣着火を性別で見ると、女性は男性の2倍以上の人数で発生しています。また、年齢では、60代が最も多く、40代から80代の間で多く発生しています。

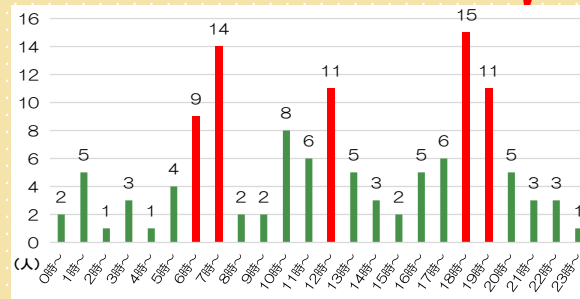
女性に多い



【性別・年齢】

こんろによる着衣着火は、18時台~19時台に最も多く発生しています。また7~8時台、12時台にも多く発生しており、食事の準備の際は注意が必要です。(出火時間不明の3人を除く。)

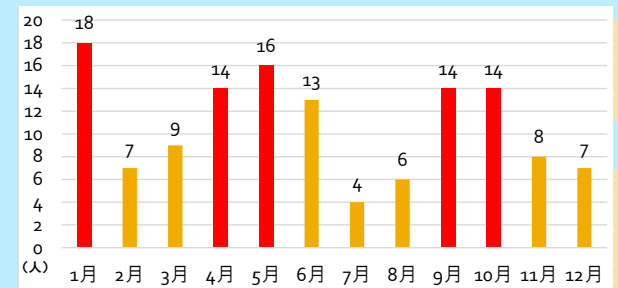
食事の準備



【発生時刻】

こんろによる着衣着火は、1月が最も多く発生しています。また、厚着をする冬場や、服装の変化する季節の変わり目に多く発生しています。

生活・服装の変化



【発生月】